



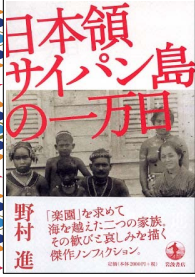
# 図書館だより

DECEMBER

図書室から眺める神峰の山々が紅葉で綺麗に色づく今日この頃・・・『図書館だより～読書週間号第2弾』をお届けします。今号は第2学年団の先生方に良い本を紹介して頂いています。皆さんも早速読んでみて、先生とともに「愛読書談義」してみませんか？

## 神永 豊

『日本領サイパン島の一万日』 野村 進著 (岩波書店)

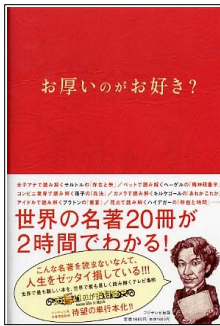


来年2月、2年生はグアム修学旅行に行く予定になっています。目的は 平和学習 学校交流があります。そこで、平和学習をする上で何か役立つ良い本がないかと本屋さんにごらっと立ち寄った所この本に出会いました。内容は、約90年前に1人の日本人が楽園を求め漂着し、そこからの生活とその後の日本統治領サイパンの様子がよく解る1冊です。是非読んでから修学旅行に行ってください。

## 中村 達

『お厚いのが好き？』(フジテレビ出版)

世の中に名著は星の数ほどあり、それらはいたい難解なものである。この本は数ある名著を身近な題材になぞらえ誰にでも読みやすく紹介したものである。例えば、マキャベリの『君主論』はラーメンで、孫子の『兵法』はコンビニで、など。難解な本に手を出す前に肩の力を抜いて読んでみてはいかがでしょうか。



## 小泉 博紀

『きみの友だち』 重松 清著 (新潮社)

ベストセラーにもなって、映画化もされたのでみなさんも知っている作品です。この作品は「ともだち」というものを深く考えさせられると思います。本を読む前にまず、考えてみてください。

「ともだち」ってなんなんだろう・・・。



## 海老沢 宏子

『半島へふたたび』 蓮池 薫著 (新潮社)



作者は拉致被害者として、人生の絶頂期である青春時代の24年間を北朝鮮に奪われ7年前に帰還した人です。自分に目標を持ち、その実現のために努力するという、ごく普通の「夢」が閉ざされていたのです。現在はそれを取り戻そ

うと日々を充実させ、精力的に行動しています。平穩無事に「時」を過ごせる事の大切さを実感してほしいのです。

## 秋山 康夫

『大搾取!』(The Big Squeeze)

スティーブン・グリーンバウ著 曾田和子訳 (文芸春秋)

リーマン・ショックのとき何が起きているのか分からず、不勉強を思い知らされた。その悔しさから、渉猟を始めた。その中で、出合ったのがこの『大搾取!』だ。新自由主義が跋扈し、アメリカの労働者が悲惨になった、歴史的経過が本当によく分かる。格差社会論が今なお喧しい中、長年の疑問が氷解する記述が多い。



## 瀬谷 貴光

『巷説百物語』 京極 夏彦著 (角川書店)

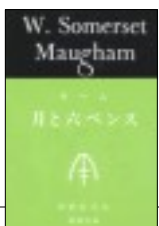


身近な妖怪「小豆洗い」などが登場する時代小説。舞台は江戸時代末期。晴らせぬ恨み、あちら立てればこちらの立たぬ困難な問題を金で請け負い妖怪になぞらえて解決する小悪党たちの活躍を描く。人の心の綾を妖怪の仕業に仕立てる事で解決するところが面白い。学校の図書館にも置いてあるので、ぜひ見て下さい。

## 槇野 忠秋

小説の題には「と」を用いたものが多い。『赤と黒』、『戦争と平和』、『罪と罰』など。英語でandは文法的に対等なものをつなぎます。したがって、作者の視点から見て、ある意味においてA・Bは等価(あるいは同一)でもあるのです。お薦めは次の通りです。

- 『Of Mice and Men』 スタインベック著
- 『The Moon and Sixpence』 モーム著
- 『Sons and Lovers』 ロレンス著



## 鈴木 辰也

『太陽の塔』 森見 登美彦著 (新潮文庫)

この本は、京大生の主人公と仲間達が織りなす、ありそうにない事件の数々が彼の目線で細かく書かれている。生徒の皆さんに本書のような大学生活の自由さを是非味わってほしい。《ゴキブリキューブ事件》や《ええじゃないか騒動》を読んでおもしろい笑って、胸をいっぱいにしてほしい。



## 木野内 聡

『マクベス』 ウィリアム・シェイクスピア著 (岩波文庫)



シェイクスピアの四大悲劇のうちのひとつです。「ロミオ&ジュリエット」のイメージが強いですが、また違った形の悲劇をこの作品は描いています。また、これは「戯曲」といったもので、小説とは違った感覚で読めると思います。登場人物の感情を読み取り、その時代の人物になりきって読み進んでいくと良いです。

## 安 めぐみ

『小石川の家』 青木 玉著 (講談社)

母親の都合で9歳の時に祖父幸田露伴と暮らす事になった著者が、様々な経験とその反省をもとにして綴ったもの。おどおどしながらとった行動に対して大人たちから厳しい指摘を受けながらも気に入られようと奮闘する様子が手に取るようにわかり、ほほえましい。孫から見た露伴はどんな人物か、読んでみて!

